



平成 15 年 10 月 15 日発行

事務局 飯能市商工観光課内
営 73-2111 内線 197

狭山市「第二環境センター」と「サピオ稲荷山」の見学会に参加して

飯能市消団連では去る6月3日狭山市「第二環境センター」と、そこに隣接する「サピオ稲荷山」の見学会を行いました。

「第二環境センター」とは何かと思われると思いますが、狭山市では燃えないゴミを第一センターで、燃えるゴミを第二センターで処理しており、つまり「第二環境センター」とはゴミの焼却を行っているところでもあります。

しかし全てを焼却するのでなく、ゴミの減量化の為にリサイクル工房もあり、そのまま再利用できる不用品は無償で、また修理工房で修理された再生品については有償で、希望する市民に提供しているそうです。そのためリサイクル品の

展示室も設けられております。

それにしても広い敷地と整備された建物であり、平成8年に125億円をかけて完成されたそうです。この施設に入っただけで驚いたことは臭いのないことです。鉄道の駅に近いこともあって建設にあたり一番苦労したのもその点のようでした。普通焼却場というところの周辺では臭いが鼻についたりしますが、ここでは建物の搬入口の内側でしか臭っていませんでした。その点でもとせばらしいと思えました。皆様も機会がありましたらぜひ見学してみてください。

狭山市は「リサイクル都市」を謳っており、焼却によって発生した熱も無駄にせず活用しようということと同じ敷地

内に23億円をかけてふれあい健康センター「サピオ稲荷山」を建設し、市民にくつろぎの場として提供しています。「サピオ」という名前ですが、Savanna People's Oasisの頭文字をとって名づけられたそうです。施設内にはプール、トレーニングルーム、浴室、大広間、会議室等があつて、多くの人が利用できるように設備されています。利用開始が平成10年ということもあつて、施設内はとてきれいでした。これからも多くの人のくつろぎの場であつて欲しいと思います。

あります。それは維持経費と収入とのアンバランスです。皆様はこの施設が赤字であることをご存知でしょうか。年間にかかる経費が2億5千万円に対して、施設使用料として入ってくる収入は758千万円ということなんです。その差額はいったいどうやって埋めていくのでしょうか？初めは良かったが後になつたら駄目になるということにならないように、適切な施設運営を望みます。

100周年記念 関西西部地区消費者団体の交流の報告

7月15日、川越地方庁舎において埼玉県西部地区消費者団体交流会が開かれました。この日は約80名ほどの参加者を前に、7団体からの発表とパネル展示が行われました。私たち「飯能市消団連」も、昨年訪れた「農林連食品分析センター」と「農林水産消費技術センター」で行われている食品の残留農薬検査を見学して感じた「輸入食品の安全性」と「これら2つの施設での検査体制」についての報告を行いました。

以下に他の6団体の報告の概略をご紹介します。

◆東京電力と共に脱原発をめざす会・・・

「今夏の電力キャンペーン」この夏、メディア、東電等が大きなキャンペーンを張り節電を呼びかけていますが、原発が止まったら本当に電気は止まるのでしょうか？

これまでの電気の最大供給量は6430万キロワット、そのうち5800万キロワットが原発なしでの供給量です。しかし過去5800万キロワットを超えたことは8日間だ「裏面に続く」

リサイクル見学会へのお誘い

快適な環境とやすらぎのある暮らしのための「リサイクル」見学会に参加されませんか

見学先 ①新座リサイクル石けん製造所
②リサイクルセンター利彩館
日 平成15年12月5日(金)
午前8時20分出発
午後3時頃帰着予定

集合・解散 飯能市役所 玄関前

参加費 1000円(昼食代)

申込先 飯能市役所・商工観光課へ
11月28日(金)までに
「73-2111 内線197」

「資源プラスチックはどこへ行くの？」

一昨年11月より新座では可燃「ミ」の中に混じっていたプラスチックが分別収集されることになりました。そこで、分別されたプラスチックがどんな方法でどんな物にリサイクルされているかを追ってみました。

けです。東電は8から9基の原発の稼働が必要とされていますが、工夫すればその必要はまったくないのではないのでしょうか。例えば企業が夏休みを分散して取る、稼働時間をずらしから3時までを休止したりするなどの使い回しをすれば、ピーク時の電力不足は回避可能です。さらに各家庭でも節電を心がけることで、このまま原発を再稼働させる必要はなくなるはず

です。原発は技術的な問題や放射性廃棄物処理等で大きな危険性や課題を抱えたままであり、もしもひとたび事故が起これば取り返しのつかない甚大な被害をこうむることもある施設です。例えば、東海地震がおきて東海原発に事故が発生した際のシミュレーションを行ってみました。放射能は南西の風に乗って神奈川、東京、埼玉を通じて関東北部まで大きく広がって行き、被害が拡大することが予想され愕然としました。

今後消費者はさまざまな情報に惑わされず、それぞれのペースで節電意識をもっていくことで、原発再稼働の必要がなくなるように努力していくことが大切ではないでしょうか。

◇新座地区連合消費生活部・・・

ないということですが。何よりもまず考えなければいけないのは、排出を減らすことだと思っています。

◇志木市くらしの会・・・

「着色料は安全というけれど」子供の喜び彩りのよい菓子には、合成着色料が使用されているものが多い上に、美しい色を出すために漂白剤、脱色剤が使用され、防腐剤も使われていたりします。また添加剤の表示も字が小さく読みづらいものが多いようです。しかし、これらの菓子は子供たちが口にすることもです。業者も私たちも体の中でどのような変化を起こすかを、もっと真剣に考えていくべきではないでしょうか。

◇新日本婦人の会

（狭山市消費生活展実行委員会）・・・

「温暖化について」昨年の消費生活展では、「温室効果ガス」が大気中に増え地球温暖化が進んでいる現象について、『温暖化のメカニズム』、『大気汚染』、『人類とエネルギーの関わり』等のテーマで発表しました。

近年、人間の活動の規模が拡大し、エネルギー消費が膨大になってきたことにより、環境・生態系まで脅威にさらされ、地球規模での温暖化をはじめとする危険な兆候が現れています。しかしながら

我が国では、原発が大変な問題になっていながら、他のクリーンエネルギー開発への投資はほとんどなされていません。今こそ、どれだけエネルギーの問題に真剣に取り組んでいけるかが問われている時であると思います。

◇埼玉学校給食を考える会・・・

「化学物質はもうガマンならない」給食のパン工場の消毒をはじめ、町内会での薬剤無料配布や公共施設での消毒など、行政は薬剤の危険性についての認識が低く、業者任せの場合が多いのではないのでしょうか。近年、薬剤の害が明らかになっていく過程で、業者は製品を急性毒性のものから慢性毒性のものへとシフトさせてきていますが、データが明らかにされていない中、今後慢性的に蓄積し作用する恐れがあります。

日本では、殺虫剤等が薬局で簡単に購入でき、その点ではまさに無法状態ともいえる状況です。ホルモン剤に関しても、まだきちんとした調査がされておらず不安に感じています。厚生省・農水省は業者の資料を鵜呑みにしているように感じざるをえません。また、残留農薬については、農家への危険性についての周知が徹底していなかったために、知らずに使用して後

に大問題になるケースが相次ぎました。これらの状況を踏まえ、行政には、なによりも国民本位という姿勢を望みたいと思います。また、私たち市民も薬剤の危険性について自覚し、一つづつその危険性や違法性を指摘していくことが必要だと感じます。

◇明日を見つめる会・・・

「ティッシュを使わないくらし」紙の値段を調べてみると、バーリンパルプからできたものの方が再生紙よりもはるかに安いのです。トイレットペーパーやティッシュペーパーは再生に回せない最終製品であり、古紙利用のもので十分だと思っております。実情は再生紙の製品は安売りもされず、取扱店も少ない、その上日本人のティッシュの使用量はアメリカ人の3倍近く、大変な使用量です。

そこで、環境を考える一つの方法としてティッシュをなるべく使わないくらしを提案したいと思っております。それには身近に再生紙利用の製品が購入しやすい仕組みを推進させ、私たちも購入の際は古紙を選ぶように心がけることが大切です。また、業者側にも長い目で見た社会的責任を自覚していただき、古紙利用を積極的に推し進めて欲しいと思います。